

ともあるから、ばんばんテープが投げられ、にぎやかに盛り上がったライブだったらしい。「三千」という数と「ひとり」「死者」の対比が印象的。

ぼっかりと予定のあいだ川岸に立てばいち日こんな
に長い 塚本瑞江

予定びつしりで、まったく空きのない毎日。時間を長いと感じたことがなかったここ半年ぐらいが、心に浮かび上がってくるような不思議な感じ。個人にとつての時間の長さは物理的なものではなく、心理的なものだとということをつくづく思う。

豆腐一口食べて好吃ハオチイと言葉にしようすぐに慣れむと
服部 崇

台湾に赴任してすぐの今月の一連。この作、台湾の赴任地に到着して最初の食事に取材したのだろう、そう思って読んだ。「好吃ハオチイ」は「おいしい」の意味。ぶすつと食べたのでは相手が気にするだろう。最初だから、コックやウェイターにも気を使っているのだろう。そんな配慮が読める。

台湾へは一度だけ行ったことがある。大昔、一九六六年のことだった。河出書房に入社して間もなく、戦争中のベトナム、さらにはインド、ラオス、インドネシア等に行った帰りに、台湾、そして返還前の沖縄を訪問した。台湾は日本統治時代の空気がまだ残っていて、日本語をしゃべれる人がまだまだ多かった時代だった。二か月近くほとんど日本語をしゃべっていなかったから、台湾では日本語が通じるのでほととした想い出がある。

薄き衣うすきに包まれたストリートピアノは脱皮前の昆虫

望月裕子

近年はやりのストリートピアノである。作者は、ちようピアノが運ばれてきたばかりのところに行き合わせたいらしい。この一首、まだピアノの梱包が解かれていない状態らしい。想像するばかりだが、薄い布のカバーにつつまれているだろう。珍しい場面に取材して楽しい一首に仕上げた。

みそ汁にとろろを入れて流しこむ陽性なりに驚く
からだに 久保富紀子

ここ三、四か月前から、新型コロナ陽性だった人の作が「心の花」にも見られるようになった。これまでに私が気づいただけでも七、八人はいたと思う。「陽性になったこと」ではなく、「陽性になったからだ」を題材にして成功した。

シニヨンという名を知りき初夏の橋に女の髪はなび
かす 植山俊宏

「シニヨン」は髪型の名称で、ネットによれば、「束ねた髪を横や後頭部でまとめた髪型。簡単に言えば、ポニテールを丸くまとめたもの」とのこと。その髪型の女性が橋を渡っても、なるほど髪はなびかない。新語をユーモアで受けたかたち。

七夕が誕生日の猫銀色の星撒くようにしつぽを揺らす
す 森屋めぐみ

猫好きの作者の猫讃歌である。「銀色の星撒くようにしつぽを揺らす」のスケールの大きさに感心する。